二等十一月八日第三種郵便物認可

常磐毎日新聞

十一月六日夕刊

日刊

定價　一部金拾錢　一ヶ月金壱拾錢　郵送料共五錢
東京市淺草区三筋町二番地　振替口座東京一七七七番
日刊紙　常磐毎日新聞　夕刊紙　常磐毎日
発行所　常磐毎日印刷株式會社
電話　常磐　六三〇〇番
編輯所　常磐毎日新聞社
（編輯日報）　常磐　六三〇〇番
（編輯日報）　常磐　六三〇〇番

秋晴れの昨日

平商校落成式

母校に永久の幸あれ……と

商友會心から祝ふ

竣通りに於ける唯一の實業教育の殿堂として颯爽たるその英姿を平市南裡の耕土に築いた平商業學校の新築落成式は既報の如く秋晴れの五日午前九時半から商友會員の努力の結晶たる木の香も新しい講堂に於て知事代理影山教育課長を始め諸橋貴族院議員伊藤石城町村長會長外在平官衙長、青沼市長並に在平各校長その他有志卒業生等八百餘名参列の上擧行された或は山部神官の祝詞奏上に次いで青沼市長の式辭、伊藤助役の工事既告功勞者表彰來賓祝辭と型の如く進み正午閉式、引續き商友會が今日の式典を迎へて母校に永久の幸あれと喜こぶ公會堂日本間に於ける祝賀會に移つたが開校僅か二十有餘年にして東北に冠たる今日の平商校の存在に對しては青沼老市長並びに服部校長以下職員、卒業生一同共に感慨無量なるものがあり開校當時を語り合ふ卒業生らは共に感謝に面をぬらしてゐた尚青沼市長の式辭は次の如し

式辭

市立平商業學校々舎新築工を竣へ本日落成式を擧ぐるに方り來賓各位の臨席を忝ふしたるは最も欣幸とする所なり

抑々教育は國家の大本にして百般の事業其の基礎を此に措ざるはなし此の故を以て明治天皇夙に教學の制を布き給ひてより邑に不學の從郷に不識の輩なく文運日に月に進み國運の進展前古其の比を見ず洵に昭代の盛事たり我が市亦此の聖旨を奉體し初等教育の完備を圖ると共に更に實業教育の重要性に鑑み之が振興を計畫し大正二年三月商業補習學校を設立第一小學校の一部を假用し授業を開始せり大正九年二月字田町に校舎を新築移轉同六月修業年限三ケ年の商業學校として開校したるも同所の停車場に隣接し且校地狹小なるため教育上不都合の點尠からざるを以て昭和三年五月字揚土の磐城中學校舊校舎に移轉同五年四月五ケ年制に昇格一學年二學級生徒定員五百名とし商業教育機關として逐年整備を高め其の卒業生亦全國に活躍し實業報國に邁進し愈其の重要性を認られ本年亦生徒定員七百五十名に增加の認可を得益校運の隆昌を致せり然るに舊校舎は明治三十四年縣立磐城中學校の校舎として建築せられたるものにして大正十三年字高月に新築移轉せられ平町に於て之を引受け小學校の一部に充當し昭和三年以來商業學校として使用せしものにして星霜既に三十有八年腐朽甚しく之が修理補強を施すも尚萬全を期するを得ず改築の急を認め昭和十二年三月新築の計畫成り字菱川地内に位置を選定し工費の起債共に認可を申請したるも電柱其の他の關係により工事困難なるを以て昭和三年三月更に字三崎地内の第五小學校敷地たる現位置に變更の議を決し全年五月十九日文部大臣の位置變更並内務大蔵兩大臣の工費起債の認可を得たるものにして又平商友會は本工事に對し前後三年の長期に亘り會員一致協力講堂新築並に設備費の募集に東奔西走奮闘の結果金一萬貳千圓の寄附申出により直に工事に着手せんとしたるも時恰も支那事變の影響により工事費の增築を餘儀なくせられたるも市費繰入と商友會寄附の增額請負者堀江工業株式會社の犧牲とに依り圓滿着工の運びを見るを得て起工以來鋭意督勵を加へ市民の熱誠なる援助と工事委員及請負者の率仕的監督指導と更に工事關係者の挽まざる努力とにより茲に豫期以上の成果を收め竣成を告ぐるに至り將來青英學習に大なる利便を加ふべき文化殿堂の出現を見たるは市民と共に慶祝措く能はざる所なり

今や校舎新に成り修學其の處を得實氣頓に振ふ然れども校舎の設備は形骸にして教育の内容は其の精髓たり職を本校に率する者よく聖旨を奉體し我が國現下の重大時局を深く認識し協心戮力生徒の教養に最善の力を盡し形骸をして單なる形骸たらしめず一意聯勉校運の隆昌を圖り地方の興望に應へ以て實業教育精髓の發揮に努めざるべからず生徒諸子亦干挫屈せず百折撓まざるの精神を以て孜々學に腕め心身を鍛錬し以て忠信孝悌の大道を明かにし商業報國の實を擧げ上は至尊の聖恩に酬ひ率り下は本校の聲譽を揚ぐるに努められんことを聊か所懷の一端を諗けて式辭とす

昭和十四年十一月五日

平市長勳四等　從五位　青沼錬太郎

今日落成記念式

平商業學校では今六日午前九時から同校講堂で落成記念式を擧行、服部校長の式辭に次いで長谷川市視學（市長代理）の挨拶室橋商友會長の祝辭後功勞者表彰並に記念品贈呈を行つたが母校發展に貢献せられたる功績誠に顯著なるものありとして表彰された人々は左の如くである

△會長室橋光△副會長比佐三郎△幹事鈴木武雄、宮川義一、坂本忠治、金子浩三△東京支部長高田平四郎△湯本支部長鈴木直江△齋藤支部長原逸

父兄會總會

生徒達も記念の催し

既報、平商業學校父兄會では落成式第三日目の明七日午前九時から講堂で總會を開催、學校側は校内柔劍道、相撲大會を催す外辯論大會、音樂會等を開くが兩出演者は左の如く演奏曲目は太平洋行進曲、愛馬進軍歌、國境の街、オリエンタル、キャラバン、校歌等である

△辯論部

盛典に列し感慨禁ぜず

平商友會長　室橋光

母校新築落成の式典を擧行せらるゝに當り多數貴賓の御臨席を忝うし不肖其の席に列するを得たることは從に欣幸とする所であります

今茲に母校の沿革を顧みるに大正二年三月町立商業補習學校の開設が實に其の嚆矢創と致すのであります

而して超えて大正九年福島縣平商業學校と改稱し規定を改め内容を整備し校舎漸く狹隘を告ぐるに至り又乃ち昭和三年揚土に移轉したのであります。此の間幾多の變遷ありと雖も克く盤根錯節に耐へまして擴張と充實とは年を逐ふて至り爾來校運隆々定員の增加と内容の整備とは寸時の猶豫を與へず昭和十四年四月三崎町の現校舎に落成と共に之に移轉した次第であります。近年入學志願者の激增と共に規模大いに膨張し今や職員二十有餘名生徒定員七百五十名吾等卒業生一千二百八十八名は社會の各階層の中堅として活躍し以て母校の名聲を擧げつゝあるは洵に慶賀措く能はざるものがあります

顧ふに草創より現在に至るまで校運の發展は恰も順風に帆を揚げたるが如く躊躇する所なかりし所以のものは之偏へに母校歴代校長先生を始め恩師各先生の經營に教養に不休の努力を傾倒せられたるに因ると共に市當局は勿論朝野各位の御後援の賜なりと深く感謝する次第であります

懷落成の感

新築

平商友會長　室橋光

母校新築落成の式典を擧行せらるゝに當り多數貴賓の御臨席を忝うし不肖其の席に列するを得たることは從に欣幸とする所であります

今茲に母校の沿革を顧みるに大正二年三月町立商業補習學校の開設が實に其の嚆矢創と致すのであり

而して超えて大正九年福島縣平商業學校と改稱し規定を改め内容を整備し校舎漸く狹隘を告ぐるに至り又乃ち昭和三年揚土に移轉したのであります。此の間幾多の變遷ありと雖も克く盤根錯節に耐へまして擴張と充實とは年を逐ふて至り爾來校運隆々定員の增加と内容の整備とは寸時の猶豫を與へず昭和十四年四月三崎町の現校舎に落成と共に之に移轉した次第であります。近年入學志願者の激增と共に規模大いに膨張し今や職員二十有餘名生徒定員七百五十名吾等卒業生一千二百八十八名は社會の各階層の中堅として活躍し以て母校の名聲を擧げつゝあるは洵に慶賀措く能はざるものがあります

顧ふに草創より現在に至るまで校運の發展は恰も順風に帆を揚げたるが如く躊躇する所なかりし所以のものは之偏へに母校歴代校長先生を始め恩師各先生の經營に教養に不休の努力を傾倒せられたるに因ると共に市當局は勿論朝野各位の御後援の賜なりと深く感謝する次第であります

今生徒を一同に

今日落成記念式

父兄會總會

生徒達も記念の催し

既報、平商業學校父兄會では落成式第三日目の明七日午前九時から講堂で總會を開催、學校側は校内柔劍道、相撲大會を催す外辯論大會、音樂會等を開くが兩出演者は左の如く演奏曲目は太平洋行進曲、愛馬進軍歌、國境の街、オリエンタル、キャラバン、校歌等である

△辯論部

竣功祝賀の菊花展開く

既報、平商の校舎並に講堂新築落成式を祝賀する亞細亞人のアジア　一年佐川英一

一歩一二年星　郷侯仰　三年渡邊聰意

時局の認識　五年小齋新平

人の生涯　一年高木昭平

澤村勝爲公を思ふ　四年諸橋英二

沖縄にこの父あり　二年小山田榮

尊き英靈に捧ぐ　五年鳥本啓三

亞細亞の曙　五年中野一

二年瀧口友人

百億貯蓄の意義　五年中野一

新校舎に學ぶ者の喜び　一年鈴木稔

國史に生きよ　四年飯島登司

人生の要締　五年小野正雄

△音樂部

フアースト…稲島正、鈴木弘道、伊藤利雄、佐々木音美、堀内國夫

セカンド…渡邊勝平、柴崎榮、新妻博、新妻弘

バリトン…田口行雄、大井川孝平、長谷川仁平

オクターブ…齋藤正雄、中島久雄、小泉正春

セロ…後藤司郎

バス…久保清次

小名濱市街鋪裝

舊年末迄に完成

中絶の心配はない　岡技手談

小名濱町市街鋪裝工事は縣土木課直營岡技手指揮の許に去八月着工したが戰時下に於けるセメントの統制によつて其配給何割かの減配となり一時は築港同樣チクグ半端の鋪裝で幕となる模樣で關係店鋪は躍起となつて騒ぎ出し町民亦附和雷同相當高潮するに至つたので今朝岡主任技手に質すと岡技手はセメント會社は石炭の統制で生産に制限を加へられ此影響でセメントの配給が著しい減配となつた事は事實であるが○○方面の納入が優先權となり其他各府縣に配給され府縣土木課は府縣内の工事の緩急に依つて配給するものであるが小名濱町の工事は既に北側の鋪裝が終へ南側は土取工事が完了して凝土打ちだけであるから是をどうする譯にもならないから必らず着工場所は完成するが年末頃までには或は不可能かも知れぬが舊年末までには必らず完成する事疑ひないと語つた

玉川村長

宮内氏決定

五對七で再選

玉川村長宮内久枝氏任期滿了に伴ふ後任村長選擧村會はこの程行はれ宮内氏の再選を期するものと遠藤榮三郎村議を推擧せんとする兩派に分かれ大紛糾をかもしたが結局遠藤派五名退場殘り七名で宮内氏を再選と決定した

鈴木曹長小野伍長前線に散る

既報、川部村小川出身佐藤聯部隊小野一好伍長、飯野村上高田出身同鈴木茂曹長はいづれも大陸に勇戰中壯烈な戰死を遂げられた旨發表されたが小野一好伍長は出征前まで農業を營んでゐた働き者家庭は母あささん(四七)と妻女はなさん(二三)弟好定君(二七)妹道代さん(一〇)道子さん(四)があり父留吉さんは一ヶ月前死亡したばかり

鈴木茂曹長は應召前まで同村青年學校指導員を勤めてゐた德望の厚い青年で何事にも熱意があるため村としても中心人物を失つたと惜まれてゐる家庭は農業を營み茂作さん(五四)よしさん(四八)夫婦の長男で兩親の外祖父敬吉さん(八四)妹くによ(一〇)弟實雄君(一七)保君(一三)正得君(七)がある

三兒を連れ美人家出

自殺の虞れあり

家人から捜索願

伊達郡保原町多額納税者格者金子兼六氏は妻の清子さん(三三)が五日午前九時半頃次男昌平君(二)長女キトちやん(八)三男元久ちやん(三)の三人を連れ保原中學校の運動會に行くと家を出たまゝ行方不明となつたが遺留品を調べた結果『海岸で自殺する』の遺書を發見したので驚いて今六日平署へ捜索方を願出た、清子さんは三年前から神經衰弱にかゝり自宅で靜養中であつた

お小遣錢を銀翼献金

内郷村白水天野源一さんの愛娘孝常二年生ふみ子さんは毎日二錢のお小遣錢を貯へてゐたところ一圓五十錢に達したがさきに献金して親戚の者が今度海軍献納報國機の命名式擧行に際し海軍大臣から招待狀が來たのをみてすつかり感激三日の明治節にそつくり銀翼献金をした

胡摩澤壯年團

映畫の夕

市内第十五區(胡摩澤壯年團主催國防献金並に國資金造成の映畫の夕は平館で十四日午後六時から開く

漁夫を種に詐欺

錦村吳羽人絹工場藥品係勿來町關田生れ窃盗前科三犯村越高水(四三)は本春來茨城縣平潟町小野良助方に至り漁夫を世話するとて二十五圓を詐取したのを始め茨城縣下で湊町その他三ケ所から同樣船主連中を欺き詐欺を働いてゐたこと發覺、此程植田署に檢擧された

同僚の衣類を盗む

勿來町酒井大日本炭礦坑夫富岡一二(三〇)は去月二十九日午後七時半頃同礦の共同浴場で防空訓練中の暗がりを奇貨とし同僚佐藤熊藏さんの衣類三點この價格四十圓を窃取したこと發覺五日植田署に檢擧された

土木委員會

平市では八日午後零時半から土木委員會を開き公益質屋竣功檢査、童子町と堂根町地内道路工事施設の件を附議する

落盤で壓死

勿來町出倉大日本炭礦支柱夫渡邊昌雄さん(四八)は四日午後五時半頃坑内で作業中落盤のため壓死した

學市人事

出生

△四波字稗田一三七小野廣市氏六男克男君

△古鍛冶町七鈴木恒之助氏賢二君

△田山五〇横山藤次氏長女朋子さん

△古鍛冶町三〇小田仁太郎氏二女イヨさん

婚姻

△東京市淀橋區西大久保一ノ四八九大久保藤氏(三五)と平市舊城跡二ノ三佐々木文さん(二六)

△東京市淺草區新福井町五秋田政吉氏(三三)と研町七西山ハルヨさん(二三)

死亡

△下平窪字曲田九〇目下上好間字小館久一氏姪孫明智俊一君(四)

△舊城跡四ノ一一寛氏父鈴木貢吉氏(六三)

△四町目二七彦太郎氏長男北村總一郎氏(三五)

小名濱郵便局長の任命

小名濱支局通信

支局長　小野務平

十一月一日付で久しく欠員中であつた小名濱郵便局長が任命された其氏名は平局長であつた小森久氏で其發表されとともに呆然たる者が十指を以て數ふるに至つたと傳へられて居るそこで近來遞信局の人事方針に從來と違つた行方ではないかと云ふ憶說さへ匂へ出すに至つた事も發展途上に在る小名濱町から言へば首肯も出來る樣でもあらうが多少の意見がないでもない

小名濱町の郵便局は明治八年頃草野袋助翁の事務取扱ひに初まり立花四郎平、鈴木貫太郎、鈴木忠亮の四代目で昭和の御代に遭遇し局舎の改造で相當の資を投じ愈々本格的に腰を据へて進まんとした矢先忠亮局長は就任わずかに一年有半で迎去して仕舞つた、もしもこれら短命で終るとせば何も大金を投じて局舎の新築も必要ないではないかとも思ふがそこは神ならぬ身の知り得ない事で已むを得ない處であるがこの條國から言ふても局長は其相續者に任命さるべきものと考へるのも無理でなからうし亦地許四五の有志家は此機會に局長乘取りの暗躍も行はれたかに聞いた

然るに遞信局の人事は此等有志家の暗躍を尻目にかけて然かも現職にあつた平二等局長をして小名濱局長に任命したと云ふのは一面地方有志家を相手にしない肚裡を示したものの樣な氣がしてならぬ勿論創業時代でもない今日何も判らぬ地方有志家を任命して複雜怪奇の時世に處もしむる事は職能增進の上に遺憾の點が多いと見る事は事務的觀點から觀ればそうも見ゆるのであらうが郵便局の如き地方的に緊國關係を結ぶ事の多い官衙には必らずしも其觀點がパスするとは見られない

遞信局の方針では小名濱町としても異數の進展率可能な市街地に何時迄も舊殼に包まれた儘推移する事は免さない二等局昇格問題も起つて來る、其時になつてゴツタ返すよりも即戰即決の今の時が時機であるとも見てのこの人事には稍々頷けないでもないが、それなれば西町郵便局開設の新局長を地許から採らないで他の町村から輸入せしめた事が更に地方有志家を無視したのではないかとも見られ今回の人事の上に一沫の暗影を投じた事になつた譯けである

之ともと郵便局創設の趣旨は地方有志家を以て充當した來その歴史は地方有志家に局長たり得る資格を附與して置いたとの制度を直ちに官廳方針に乘りかいて地方の有志家に一顧をも與へない人事の行政は郵便局の如き地方緣國の多い役所には禍根をもたらす恐れがある新任局長はどんな人か記者は知るよしもないが今後小名濱局が進展の上にも地方有志家を措いて何事も可能とは考へられまいと思ふ其時に今回の取つた人事が尙四十ではないかと云ふ時が必らず無いと誰が保證出來よう記者は曾くこの人事のあやまれる事に多大の注意を拂ふ事にした（完）

天氣豫報

今晩は東の風雨

明日は南東の風雨天氣次第に良くなる

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇子供の時間　實話とピアノ　伸崩會

▼後六、二五講演「スポツと體育」醫學博士野津謙

▼後七、四〇國民歌謡

▼後七、三〇講演「獨ソ接近後に於けるソ聯の進出」丸山政男

▼後八、〇〇物語「航空部隊」岡譲二

▼後八、二〇ラヂオ時局讀本「貿易と爲替の卷」

▼後八、四〇新京より

▼後九、〇〇府縣めぐり

明日の部

▼後〇、〇五マンドリン五重奏と獨奏

▼後六、〇〇子供の時間「不思議問答」理學博士大島正滿

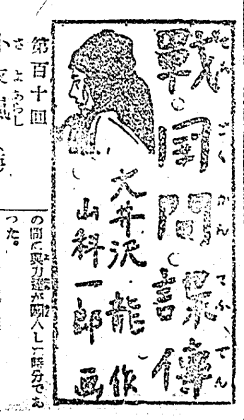
▼後六、二五講演「商業青年の教養と施設」商學博士井上貞藏

▼後七、三〇特別講演「瓦斯の需給調整について」商工省化學局長永田彦太郎

▼後八、〇〇管絃樂

▼後八、四〇青年の時間

▼後九、〇〇連續物語「宮本武藏」市川八百藏



第百十回

小夜嵐（其）

「ことや、人がひや」

「ふかにも物千萬、さては密夫うま〳〵としてやられたかの」

小柳の体をぐつと引きつけ、つ手なはなすと、はたり障子の上に倒れた。鏡に向ひ髪ぐしを直しかけた。その下から鏡の明れたやうにワッと大きな聲を上げて出た。

密夫の小柳與八は不意におそつたが、彼のうろたえさに驚き騒ぎ立てられず、身體を引き寄せたゞワ〳〵とふるへてゐただけだった。

こりやいかぬと今度は密夫などをつかつて、まんまと逃げられたいま〳〵しさの三人は、あはてふためき

「それ門口へ逃げ失せた、早々追駆せい」

と今は大騒ととなりつけて與力はじて、何誤も私の命令ぶりにて

「まあこの金民藏にまかせあそこの前に與力達が駆へ上り部分である。

相撲金を投ゲして相撲目に其門をあけてそうと外を覗いて見ると、怪い樣相には五六人の黑ん坊が立つてひそ〳〵と話合つてゐるのを六月明りで知れた。

金民藏一人なれば捕縛の器具に手なはなしでも敵人の目をごまかして逃げる方法はいくらもあつた。

ことであつたが何樣捕縛なぞと云ふ小樣を連れてゐることとてなか〳〵この人間をうまく騙りおけることは大ケしい。

「待まさま、御神藏がなりませぬ外にはもう手段がついて居ります」

金民藏がそう言うすると

「どうしたらよいかのう。聞れられるか」

「まあ、見ておいでなさいませ」

と言ひ捨てて、金民藏は、さすがは其の名にたがはず、鏡藏かつの多少の相撲さへ知へて此の夜の西藏振りこそ實驚嘆を叫ばしむるほど鏡かさ

先づ藏松丸を鄉藏から連れ出して鏡に下りた金民藏は、即に自分が騙れてゐる、浴場さきの洗藏場に連れて行き

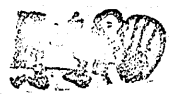
「ここにて、しばらく鏡かに御かくれ遊られますやう」

「云ひのこし、母屋へとつて返さ」

と藏場の樣與を縛りあげて接藏を鏡ゐ、上座の間に曳きづり込んで藏松丸の代りにした。それは捕手が來た時に藏しの間でも目先をごまかして時間をとるためと優人たちの藏をあおしてやろうと云ふいたづらの心、そしてそれから藏時にけつて藏松丸、女藏お清を藏に代つて不藏藏の藏藏、藏藏藏

修身の教へ方

波多野鼎子



「嬉しがる小學校一年生の時間のこと」

一わたり「ふおけいこ」がすんで、「蛍の光」のレコードをかけることになつた。「蛍の光」は「修身」と「行進曲」どつちかけませうか」

先生がさうおつしやるとある子供は「行進曲」といひ、他の子供は「修身」といふ。そのガヤガヤした中で先生は、みんなに手をあげさして、「蛍の光」をかける事になつた。

すると「あゝうれしい」といふ子供たちの中にまじつて「つまんないなあ！」「いやだなあ」といふこえがいくつもおこつた。

ところがその次の「修身の時間」である、受持の先生が「今日「蛍の光」の時間に何かあんまりよくないことを云つた人がありました。よく考へて何かいけないことを云つたと思ふ人は手をあげなさい」とおつしやつた。さあ誰にわからないするとしばらくして先生がおつしやつた。レコードの時、もう「行進曲」にきまつてしまつてもまだ不平をいつてゐる人がゐる。

きまるまではどんなに自分の云ひ分をとほしてもいゝ、けれど一度きまつたらいくら自分が考へてみたのと違つてゐようとも、よろこんでそれと一しよにならなければ「蛍の光」はできない云々と、なるほどさうであつた。

私はこの「蛍の光」生活に取した「修身の教授法」に感銘すると同時に、すべての小學校の先生が、かういふ方法で「修身」を課して下さることを希望する。

體育偏重に陷る勿れ！
優れた智能とて磨かざれば光らず
「遺傳」と「教育」の問題

……「體育」と「教育」の問題

……

……

……